

平成30年第1回ぶんごたかだ子ども市議会会議録(第1号)

○議事日程〔第1号〕

平成30年8月28日(火曜日)午前9時0分 開会

※臨時議長の紹介

※開会宣言

- 日程第1 子ども議員の自己紹介
 日程第2 子ども市議会議長選挙
 日程第3 子ども市議会副議長選挙
 日程第4 議席の指定
 日程第5 会議録署名議員の指名
 日程第6 会期の決定
 日程第7 一般質問
 日程第8 委員会設置
 日程第9 各委員会の委員長及び副委員長並びに
 委員選任
 日程第10 各委員長報告・各委員長報告に対する
 質疑・討論・表決

事務局長 安田 祐一
 主幹兼議事係長 板井 保明
 主任主査 小門 敏宏

○説明のため議場に出席した者の職氏名

市長 佐々木 敏夫
 副市長 堤 隆
 市参事兼総務課長 佐藤 之則
 社会福祉課長 植田 克己
 環境課長 後藤 史明
 商工観光課長 河野 真一
 教育委員会
 教育長 河野 潔
 教育総務課長兼地域総務一課長
 安藤 隆治
 学校教育課長 小川 匡
 文化財室長 板井 浩

○本日の会議に付した事件

議事日程と同じ

○出席議員 (18名)

- 1 番 河野 快星
 2 番 土居 光一郎
 3 番 穴瀬 ひかり
 4 番 川口 祐樹
 5 番 安藤 慶一郎
 6 番 高松 栞歩
 7 番 北迫 黎風
 8 番 銅野 聖波
 9 番 後藤 鳳我
 10 番 二宮 誉彰
 11 番 外山 渚
 12 番 米光 裕
 13 番 安藤 礼来
 14 番 大西 一歌
 15 番 栗元 琥太郎
 16 番 池森 夏妃
 17 番 近藤 海空
 18 番 富重 貴弘

○傍聴のため議場に出席した市議会議員

- 1 番 安達 かずみ
 2 番 中尾 勉
 3 番 黒田 健一
 4 番 甲斐 明美
 5 番 井ノ口 憲治
 6 番 阿部 輝之
 7 番 土谷 信也
 8 番 近藤 紀男
 9 番 成重 博文
 10 番 安達 隆
 11 番 松本 博彰
 12 番 河野 徳久
 13 番 安東 正洋
 14 番 北崎 安行
 15 番 河野 正春
 16 番 山本 博文
 17 番 菅 健雄
 18 番 大石 忠昭

○欠席議員 (0名)

○職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

○事務局長(安田祐一君) 皆さんおはようございます。

ぶんごたかだ子ども市議会開会に先立ちまして、子ども市議会議長が選挙されるまでの間、出席議員の中より代表して三浦小学校6年、池森夏妃議員に

8月28日

臨時議長を務めていただきたいと思います。池森議員、議長席へお越しく下さい。

○臨時議長（池森夏妃君） 皆さんおはようございます。

ただいま臨時に議長の職務を行うことになりました三浦小学校6年、池森夏妃であります。どうぞよろしく願いいたします。

議員各位にお知らせします。本会議中、写真撮影を行いますのでご了承願います。また、傍聴者の方々をお願いいたします。ケーブルテレビによる議会生放送の撮影を行います。議場の構造上、やむを得ず傍聴者の方々映ることがありますが、あらかじめご了承いただきますようお願いいたします。

○臨時議長（池森夏妃君） これより本日の会議を開きます。

本日の日程はお手元に配付してあります日程表のとおりであります。

市長ほか関係者の出席を求めましたのでご了承願います。

市長から発言を求められておりますので、これを許します。市長、佐々木敏夫君。

○市長（佐々木敏夫君） 皆さん、おはようございます。ぶんごたかだ子ども市議会の開会に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は市内各小学校から18名の子ども議員の皆様にご出席をいただき、豊後高田市で初めての子ども市議会を開催することができました。大変うれしく思っております。また、傍聴者には保護者の方々を始め、学校の先生方、多くの市民の皆様にお越しをいただいております。そして本日は市議会議長、副議長、また議員各位におかれましては、いつもと反対側の席についていただいております。

本日の子ども市議会は18名の皆さんが学校や地域を代表する市議會議員として、実際の市議会と同様の方法で議論をしていただきます。このような場を通して、豊後高田市の未来について大いに考え、発信していただきたいと思います。子ども議員の皆さんは、なれない議場での初めての経験ですから少し緊張されているかもしれません。どうかリラックスして、日ごろから感じていることや思っていることなどを発表していただきたいと思います。私たち執行部といたしましても、本日は非常に新鮮な気持ちでこの場に臨んでおります。豊後高田市の将来を担う皆さんが市の現状や将来のことをどう感じ、どう考えているのか、直接伺う貴重な機会であ

ります。

私は大分県議会の議長時代に大分県で初めての子ども県議会を開催することができましたが、子ども議員の皆さん方が発表された意見に深く感動し、心に刻まれたことを覚えております。そういった意味でも、今回はどんな質問や意見、提言をいただけるのか、とても楽しみにしているところでもございます。

傍聴にお越しの皆様方もどうか最後までご清聴いただき、子ども議員の皆様方の意見に耳を傾けていただきたいと思います。本日の市議会が子ども議員の皆様にとっても貴重な体験となり、そして将来に向けて意味深いものになりますことを心から祈念申し上げます。終わりになりましたが、子ども市議会の開催に当たり、ご尽力、ご協力をいただいた各関係者の皆様方に深く感謝を申し上げまして私の挨拶とさせていただきます。本日はまことにありがとうございます。

○臨時議長（池森夏妃君） ありがとうございます。

続きまして、豊後高田市議会議長から発言を求められておりますので、これを許します。議長、安達隆君。

○豊後高田市議会議長（安達 隆君） 皆さん、おはようございます。本日ここにぶんごたかだ子ども市議会の開催に当たりまして、市議会を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

本日は市内11校の小学校を代表する子ども議員の皆様には夏休みも終わりに近づき、勉強などで大変お忙しい中、ぶんごたかだ子ども市議会にご出席をいただき、議員一同、心より歓迎申し上げます。

また、傍聴席の保護者の方々を始め、学校の先生方や市民の皆様には早朝よりご参加していただき、まことにありがとうございます。そして、市長、副市長、教育長を始め執行部の皆様には、初めての子ども市議会の対応となりますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

きょうは子ども議員の皆様が私ども市議會議員にかわって、市長さんや教育長さんを始め、関係課長さんに鋭い質問をしていただきたいと思います。そして、豊後高田市のよりよいまちづくりのために皆さんが考えていることを自信を持って提案してください。この体験を通じて、今後も日々の家庭や学校生活の中で豊後高田市の将来について考えたり、議会や市政に関心を持っていただければ幸

いかと思います。

終わりになりますが、本日の子ども市議会の開催に当たり、市長を始め、執行部の皆様方並びに各学校の先生方ご家族の皆様方には多大なるご尽力とご協力を賜りまして心から厚くお礼を申し上げます。

子ども議員の皆さん、頑張ってください。

○臨時議長（池森夏妃君） ありがとうございます。た。

ただいまの出席議員は18名で議員全員の出席であります。よって平成30年第1回ぶんごたか子ども市議会は成立いたしましたので開会いたします。

○臨時議長（池森夏妃君） 日程第1、子ども議員の自己紹介を行います。1番議員から順次、自己紹介をお願いします。

○1番（河野快星君） 豊後高田市6年、河野快星です。

○2番（土居光一郎君） 呉崎小学校6年の土居光一郎です。

○3番（穴瀬ひかり君） 桂陽小学校6年の穴瀬ひかりです。

○4番（川口祐樹君） 戴星学園6年の川口祐樹です。

○5番（安藤慶一郎君） 高田小学校6年、安藤慶一郎です。

○6番（高松栞歩君） 香々地小学校6年の高松栞歩です。

○7番（北迫黎風君） 高田小学校6年、北迫黎風です。

○8番（銅野聖波君） 河内小学校の銅野聖波です。

○9番（後藤鳳我君） 高田小学校6年、後藤鳳我です。

○10番（二宮誉彰君） 真玉小学校6年、二宮誉彰です。

○11番（外山 渚君） 臼野小学校6年の外山 渚です。

○12番（米光 裕君） 真玉小学校6年の米光 裕です。

○13番（安藤礼来君） 香々地小学校6年の安藤礼来です。

○14番（大西一歌君） 桂陽小学校6年の大西一歌です。

○15番（栗本琥太郎君） 高田小学校6年、栗本琥太郎です。

○16番（池森夏妃君） 三浦小学校6年、池森夏妃です。

○17番（近藤海空君） 桂陽小学校6年、近藤海空です。

○18番（富重貴弘君） 草地小学校6年、富重貴弘です。

○臨時議長（池森夏妃君） 日程第2、子ども市議会議員の選挙を行います。選挙の方法は信任投票で行いたいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○臨時議長（池森夏妃君） ご異議なしと認めます。よって、選挙の方法は信任投票で行うことに決定しました。

子ども市議会議員に香々地小学校6年、安藤礼来君を選任したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○臨時議長（池森夏妃君） ご異議なしと認めます。よって、子ども市議会議員に香々地小学校6年、安藤礼来君を選任することに決定しました。

ただいまから投票を行います。議席に設置されている賛成、反対、いずれかのボタンを押した後に賛成する人は起立してください。反対する人は、そのまま着席をしてください。

お諮りいたします。ただいま子ども市議会議員に香々地小学校6年、安藤礼来君を選任することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○臨時議長（池森夏妃君） 起立多数であります。よって、子ども市議会議員に香々地小学校6年、安藤礼来君を選任することに決定をいたしました。

ご着席ください。

安藤礼来君は議長席までお越しください。それでは議長と交代します。ありがとうございます。

○議長（安藤礼来君） おはようございます。ただいま議長に信任されました香々地小学校6年、安藤礼来です。議事進行がスムーズに進むよう、皆様のご協力をいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

○議長（安藤礼来君） 日程第3、子ども市議会副議長選挙を行います。選挙の方法は信任投票で行いたいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安藤礼来君） ご異議なしと認めます。よって、選挙の方法は信任投票で行うことに決定しました。

子ども市議会副議長に草地小学校6年、富重貴弘

8月28日

君を選任したいと思います。これにご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(安藤礼来君) ご異議なしと認めます。よって、子ども市議会副議長に草地小学校6年、富重貴弘君を選任することに決定しました。

ただいまから投票を行います。議席に設置されている賛成、反対、いずれかのボタンを押した後に賛成する人は起立してください。反対する人はそのまま着席をしてください。

お諮りいたします。ただいま子ども市議会副議長に草地小学校6年、富重貴弘君を選任することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(安藤礼来君) 起立多数であります。よって、ただいま子ども市議会副議長に草地小学校6年、富重貴弘君を選任することに決定をいたしました。

ご着席ください。

富重貴弘君は副議長席までお越しくください。

○副議長(富重貴弘君) おはようございます。ただいま副議長に選出されました草地小学校6年、富重貴弘です。議長を助け、議事進行を進めていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

○議長(安藤礼来君) 日程第4、議席の指定を行います。

議席は会議規則第4条第1項の規定により、ただいまご着席のとおり指定いたします。

○議長(安藤礼来君) 日程第5、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員に10番、二宮誉彰君及び12番、米光裕君を指名いたします。

○議長(安藤礼来君) 日程第6、会期の決定を議題といたします。

お諮りいたします。ぶんごたかだ子ども市議会の会期は本日1日限りといたしたいと思ひます。これにご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(安藤礼来君) ご異議なしと認めます。よって、会期は本日1日限りと決定いたしました。

○議長(安藤礼来君) 日程第7、一般質問を行います。

一般質問通告表の順序により、5番、安藤慶一郎君、6番、高松栞歩君の発言を許します。5番、安藤慶一郎君。

○5番(安藤慶一郎君) 学んで遊んで楽しいまち

づくり委員会の安藤慶一郎です。私たちはみんなの命を守る総合体育館の建設について質問します。

豊後高田市にはたくさんの人たちが運動をしたりイベントを楽しんだりする中央公園があります。平日、休日を問わず、地元の方々だけではなく昭和の町を観光に来た観光客の方々で毎日とてもにぎわっています。

しかし、この豊後高田市には、季節や天候に左右されず、安全に快適に過ごせる総合体育館はまだありません。現在、熱中症などさまざまな問題で私たちは1年を通して運動することが難しくなっています。季節や天候に左右されず、安全に快適に過ごせる大きな総合体育館があれば、豊後高田市はより元気になると思ひます。

また、災害時には、この総合体育館は避難場所としても活用できます。その総合体育館でスポーツ大会やイベントをすることによって、たくさんの方が豊後高田市に足を運びます。そこで豊後高田市の魅力や特産物をPRしていくことによって移住してくる人や観光客の人がふえていくと思ひます。

そこで豊後高田市では、このような総合体育館の建設についてどのようなお考えを持っているか教えてください。

○議長(安藤礼来君) 教育長、河野 潔君。

○教育長(河野 潔君) 安藤慶一郎議員の市民の命を守る総合体育館の建設についてのご意見にお答えをいたします。

まず、何よりも人の命を守ることを最優先しなければならないと思ひますし、総合体育館の建設につきましても、ご意見をしっかりと受けとめて、今後、教育行政を進めていきたいと考えております。

豊後高田市では、ことしのような猛暑の夏や寒さの冬に対応するために、幼稚園、小学校、中学校全ての教室、そして特別教室に必要な箇所にエアコンを設置して3度目の夏を経験しています。現在、ニュースで言われていますように、全国や県下には多くの学校にエアコンが設置されていなく、深刻な問題となっています。豊後高田市の皆さんは、ことしのような猛暑の中でも快適な学校生活を送っていると、そう思っておるところであります。設置されていない全国の学校のお友達には申し訳ないけれども、しかし、皆さんは、その点は幸せではないかと思ひます。そんな中で学力で体力で、そして豊かな心づくりで本当によく頑張っていると思ひます。

しかし、災害はいつ起きるかわかりません。その

時は安藤慶一郎議員の言われた、みんなの命を守ることが一番大切です。万一、災害が起きたとき、それも最近のように大きな被害が出たときは、学校は避難所となっています。被災された人たちは、整備された総合体育館はないまでも、エアコンの整備された教室や特別教室で生活することは十分に可能になりますので、その時は大いに活用できるのではないかと考えておるところであります。

私たちは、児童の皆さんが、もちろんですけども、市民の皆さんがどんなときも健康になり、そして元気になることを願っています。児童の皆さんがこれからも安心して学力に体力に、そして豊かな心づくりに向けて努力していくことをこれからもずっと最大の声援を送り続けたいと、そう考えておるところであります。

総合体育館の建設につきましては、冒頭に申しましたように、今後、しっかりと心に受けとめてまいりたいと思っておるところであります。

以上でございます。

○議長（安藤礼來君） ただいまの答弁に対して再質問はありませんか。6番、高松栞歩君。

○6番（高松栞歩君） 学んで遊んで楽しいまちづくり委員会の高松栞歩です。再質問をします。

みんなの命を守るという視点から、災害時の避難場所としても総合体育館は利用できると思います。

私は7月の西日本豪雨の時、避難する場所がない、また、あったとしても冷暖房等の設備が十分ではなく、避難者が苦しんでいるニュースを見ました。その時、安全で快適に避難できる場所の必要性を改めて強く感じました。

豊後高田市も例外ではなく、先日の豪雨では学校や公民館などさまざまな場所が避難場所となりました。避難してきた方も多かったと聞いています。

そこで今現在、豊後高田市の防災のための避難施設についての現状、そしてお考えについて教えてください。

○議長（安藤礼來君） 市参事兼総務課長、佐藤之則君。

○市参事兼総務課長（佐藤之則君） 高松議員からの防災のための避難施設についての再質問にお答えをいたします。

ことし7月の西日本豪雨の時には、広島、岡山などが大変な状況になりました。その時、豊後高田市でも市内全域に避難勧告を発令し、市民の皆さんへ避難をしてくださいと呼びかけました。その結果、

市内の小中学校の体育館、それから公民館など、避難所12カ所に合計227人の方が避難をしました。

市内には市が安全と判断した指定避難所が34カ所あり、9,470人の方が収容でき、食料や毛布など備蓄物資も整備しております。そのうち17の施設に冷暖房が設置されていますが、半分の施設にはありません。そのため、小中学校の体育館などでは、夏には扇風機、冬にはストーブで対応をしているところがあります。豊後高田市でも、もし大規模な災害が起こった場合には避難所生活も長くなることから、臨時的に冷暖房のレンタルなども考えていかなければならないと思っています。

ご質問の中で、避難所としての体育館の活用ということを指摘いただきました。避難所の命を守る機能に加え、冷暖房設備による快適性も長期間の避難では重要になります。そういった観点から、津波や洪水など災害によっては使えない場合もありますけれども、先程教育長からお話がありましたエアコンの整備された教室や特別教室、それに加えて、花っこルームやおひさまひろば、放課後児童クラブなど、教育・子育て支援の拠点施設についても避難所として活用できないか検討してみたいと思います。

高松議員、貴重なご意見ありがとうございました。

それから、市では、これまで全ての災害に対する対策として小学校区での総合防災訓練や自治会ごとの防災研修などを実施してきました。その中で、事前の備えとして緊急避難グッズや非常食を準備するなど、自分の命は自分で守る自助と、災害が起こったときには周りのみんなの命を考えて、より被害が少なくなるよう行動するなど、地域住民がお互いに助け合う共助の取り組みをお願いしてきました。皆さんも学校でさまざまな避難訓練を実施していることと思いますが、自治会や学校区単位での防災研修、避難訓練にも積極的に参加し、命を守るスキルを高めていってください。よろしくをお願いします。

なお、防災対策について市報の9月号、それから9月5日から放送のケーブルテレビの防災特集でも詳しく紹介しますので、ぜひごらんください。

以上でございます。

○議長（安藤礼來君） ほかに質問はありませんか。6番、高松栞歩君。

○6番（高松栞歩君） これで質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（安藤礼來君） 一般質問を続けます。11番、外山 渚君、12番、米光 裕君の発言を許します。1

1番、外山 渚君。

○11番(外山 渚君) 学んで遊んで楽しいまちづくり委員会の外山 渚です。私は、私たちの学びを深めるICTの充実について質問します。

私たちは毎日、いろいろな教科の学習に頑張っています。苦手な教科もありますが、先生に質問したり、友達と話し合ったりして課題を一つずつ解決していています。

しかし、教科書や資料だけではイメージが湧かないときがあります。そのようなときは、電子黒板や実物投影機を活用して実際の映像を見たり、インターネットで調べたりすることで理解を深めています。

例えば、英語の学習では、映像や音声を手がかりにインタビューの方法について学習をして、修学旅行の時には自信を持って他国の方にインタビューをすることができました。

学習発表では、ICTを活用してスライドを作成し、わかりやすいプレゼンテーションをすることができました。

ここで質問者を交代します。

○議長(安藤礼来君) 12番、米光 裕君。

○12番(米光 裕君) 学んで遊んで楽しいまちづくり委員会の米光 裕です。質問を続けます。

このようにICTを使うことで、私たちはより多くのことを効果的に学ぶことができます。私たちが大人になるときは、今以上に社会がIT化していくと聞いています。実際、小学校で2年後にはプログラミング学習も始まるそうです。

しかし、現在、学校ではインターネットを使うにはパソコン教室に移動しなければならなかったり、同時に幾つもの学年がパソコンを使うことができなかつたりする学校もあります。

タブレット端末と通信環境を整えば、教室や図書館で調べ学習を進めることができます。豊後高田市内の学校間をつなぎ、考えを交流することもできます。兄弟都市として40年以上も交流が続いている島原市の学校との交流もより一層深めることができます。他県では、タブレットを使って海外の人と会話をしている学校があるそうです。

そのほかにも、例えば、跳び箱を跳んでいる様子を動画で撮影して、ICTを効果的に活用していくことで、私たちの学習はさらに広がり、深まっていきます。

そこで、1人に1台タブレットを用意してほしいと思います。また、そのタブレットを使うための通

信環境を整えてほしいと思います。

今後も豊後高田市の学校におけるICTの充実に向けて、市ではどのようなお考えがあるのか教えてください。

○議長(安藤礼来君) 市長、佐々木敏夫君。

○市長(佐々木敏夫君) 私たちの学びを深めるICTの充実についてお答えいたします。

教育のまち豊後高田市では、各学校がそれぞれの特徴を活かして、全ての子どもたちがしっかりと学習できるよう、学校、家庭、地域が一つになって全力で応援しています。ことしも皆さんの頑張りで学力調査においてすばらしい成果を上げておりますし、スポーツ面でも約2万3,000人の人口ですが、多くの競技で優勝、準優勝、ベスト4、ベスト8と勝ち進み、大変頼もしく思っております。

皆さんは学校において、21世紀を生き抜く力を育むため、教科の学習や児童会活動、また体験活動、ボランティア活動等、多くの学習をしています。また、グローバル社会に対応していくため、世界に目を向け、インターネットを活用した情報を収集したり、発信したりしています。最近では、スマートフォンのように、いつでも、どこでも、誰とでもいろいろなアプリを利用して、いろいろなことができるようになりました。

2020年から本格的に始まるプログラミング教室を始め、英語教育における英会話などのコミュニケーション力に対する重要性も高まって、その際にタブレット、Wi-FiといったICT環境の充実は大変重要なものであると思っております。このICT環境の充実により、皆さんが学習への興味、関心が高まり、授業に主体的に臨み、自分に合った進路を学習できると思います。

提案のあった1人1台のタブレット端末の設置について、また通信環境の整備については、議員さんの要望に沿えるよう努力してまいりたいと思っております。

皆さんは豊後高田市にとってかけがえのない存在であります。将来、豊後高田市を担う人材になるように、市を挙げて全力で応援してまいりたいと思います。よろしく願いいたします。

○議長(安藤礼来君) ほかに質問はありませんか。12番、米光 裕君。

○12番(米光 裕君) これで質問を終わります。ありがとうございました。

○議長(安藤礼来君) 一般質問を続けます。4番、

川口祐樹君、10番、二宮誉彰君の発言を許します。
4番、川口祐樹君。

○4番（川口祐樹君） 市民にやさしいまちづくり委員会の川口祐樹です。私はみんなの暮らしやすさにつながるバリアフリーの取り組みについて質問します。

私の学校では27年間引き継がれている活動があります。それは、アルミ缶を集めて車いすや介護ベッドを社会福祉協議会へ贈るという活動です。私は、5年生の時、この活動がどのようにして生まれ、現在まで引き継がれてきたのかについて調べたことがあります。その中で、自分たちの活動が人の役に立っていることに改めて気づくことができました。そして、もっと何かできることはないかと考えるようになりました。

体が不自由な方の中には、住みなれた自宅で過ごしたいという方が多くいらっしゃると聞きます。そんな方々に私たちが贈った介護ベッドを利用してもらえれば、体の不自由な方も、その方をサポートする方も生活しやすくなるのではないかと思います。

そこで、豊後高田市では体の不自由な方も、それをサポートする方も暮らしやすくするためにどのようなことを行っているのか教えてください。

○議長（安藤礼來君） 市長、佐々木敏夫君。

○市長（佐々木敏夫君） みんなの暮らしやすさにつながるバリアフリーの取り組みについてお答えいたします。

まず始めに、戴星学園の皆さんには平成30年度からこれまで27年間にわたりアルミ缶の収集を行い、その収益で介護ベッドや車いすを社会福祉協議会へご寄贈いただき、まことにありがとうございます。この場をおかりして改めてお礼を申し上げます。

さて、ご質問の体の不自由な方やその方をサポートする方が暮らしやすくするための取り組みについてですが、体の不自由なこととは、高齢化や病気などにより今までできたことが少しずつできなくなり、介護を必要とする方や心身の障がいにより生活に制限を受ける方などが考えられます。市では、そのような方々の困り事に対して、できるだけ解消されるように、バリアフリーの取り組みを推進しています。

具体的には、多くの皆さんが利用する市役所や図書館などの公共施設では、足の不自由な方や車いすでも利用しやすいように段差をなくし、スロープや手すりなどを設置しています。また、視覚障がい者の方のために音声案内ができる多目的トイレの設置

や市報の点字、音字なども行っております。そのほかにも、歩道等に設置している点字ブロックや市のホームページなどで文字を大きくすることができるのもバリアフリーの取り組みの一つであります。

そのような公共施設等のバリアフリー化に加え、できるだけ住みなれた地域で、また自宅で生活していけるように、介護用のベッドや車いす、補聴器などの身体上の障がいを補うための補装具や日常生活用具を購入したり、借りることができるようなサービスや、高齢者や障がい者が安心して暮らせる介護する家庭の負担を軽減していくために、自宅のトイレやお風呂を改修したり、また、スロープを設置するための助成制度などもあります。

ご寄贈いただいた介護ベッドや車いすも、借りたいという希望者に対して、社会福祉協議会から貸し出しを行っております。あわせて、食事や洗濯、掃除、買い物などができない方は、ホームヘルパーさんのお手伝いをしたり、お風呂に入れられない方は訪問入浴サービスなどをしております。

このような取り組みは、住みなれた地域や自宅で生活していけるように支援をするものであります。どうしても自宅で生活が困難な方のために老人ホームなど生活のできるような支援を行っているところでもあります。どうぞよろしくお願いたします。

○議長（安藤礼來君） ただいまの答弁に対して再質問はありますか。10番、二宮誉彰君。

○10番（二宮誉彰君） 市民にやさしいまちづくり委員会の二宮誉彰です。再質問をします。

私の学校では、毎年、3年生が老人ホームに行つて高齢者の方と触れ合いを行つています。私も3年生の時に高齢者の方と交流をしました。その時、車いすを使って移動している方がいました。その方の様子を見てみると、車いすで生活をしている方の大変さを感じました。この活動で大変さを感じた後から、市内でも体の不自由な方を見かけると、何か生活をする中で困っていることがあるのではないかと考えるようになりました。体が不自由な方がどんな支援を必要としているのかについて、知らないという無関心で理解できないままだと思います。だから、もっと知ることが大切だと思います。どんなものが必要なのかはもちろん、豊後高田市で行っているいろいろな支援の内容をみんなが知ったり、例えば、贈られた介護ベッドがどのように活用されているのか、喜ばれているかなど、支援者側が知ることによって、もっと行動しないと考えると思います。

8月28日

そこで、豊後高田市として体の不自由な方やサポートされる方へのさまざまな取り組みをどのように市民の方々にお知らせをしているのか教えてください。

○議長（安藤礼来君） 社会福祉課長、植田克己君。

○社会福祉課長（植田克己君） それでは、二宮誉彰議員の再質問にお答えします。

まず初めに、これまで贈呈していただいた介護ベッドや車いすの活用状況についてですが、借りたいという希望者が非常に多く、特に介護ベッドは、ほぼ100%活用されている状況であります。利用者の皆さんは、介護ベッドを借りることができて、起き上がりが楽になった、転倒防止になると、高額な介護ベッドを借りることができて非常にありがたいといううれしいご意見をお聞きしております。

次に、市が行っているサービスや支援の内容についての市民の方々へのお知らせにつきましては、ホームページやケーブルテレビ、市報などを通じてお知らせをしております。

あわせて、介護サービスや障がい福祉サービスを利用する場合は相談を受ける専門の方がおりますので、そういった方々に制度の内容などについて周知を行い、対象者へお知らせをしております。

議員ご提案のように、体の不自由な方がどういった支援を必要としているのか、また、どのような支援があるのかなど、ご本人だけではなく、周りの方々に知っていただくことは非常に大切であります。そのことにより、体の不自由な方の困り事に関心を持ち、誰もがお互いを尊重し、理解し、相互に助け合うことのできる地域社会の実現を目指してまいりたいと思いますので、今後ともぜひ皆様方のご協力をいただければと思います。

以上でございます。

○議長（安藤礼来君） 市長、佐々木敏夫君。

○市長（佐々木敏夫君） 先程、私の答弁の中で、戴星学園の皆さんの取り組みを平成30年度からと申したわけですが、平成3年度からが正しいので修正をさせていただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

○議長（安藤礼来君） ほかに質問はありませんか。10番、二宮誉彰君。

○10番（二宮誉彰君） これで質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（安藤礼来君） 一般質問を続けます。1番、河野快星君、8番、銅野聖波君の発言を許します。1番、河野快星君。

○1番（河野快星君） にぎわいのあるまちづくり委員会の河野快星です。私は、みんなに愛される日本遺産や文化財にするための取り組みについて質問をします。

豊後高田市には千年の昔からこの地に広がった伝統的な文化があります。すぐれた文化財や史跡も多く残されており、その保存、継承の活動が行われています。

ことし5月24日には、鬼が仏になった里「くにさき」として日本遺産に認定されました。自分たちの住む町が日本遺産に認定されたと聞いたときは、とてもうれしかったです。その時の記者会見で佐々木市長さんは、観光や地域の活性化につなげていきたいとおっしゃっていました。

この日本遺産や文化財は私たちの宝です。このすばらしい宝を市民みんなで大切にし、受け継いでいくためには、みんながもっと日本遺産や文化財を知ることが大切だと思います。例えば、地域に展示室や資料館をつくって、その地域に残る日本遺産や文化財を紹介し、さらに見学するコースをつくることによって、僕たちの学習になると思います。また、市外から訪れた方にも、地域の方にも愛される日本遺産や文化財になると思います。そのような計画があるのか教えてください。

○議長（安藤礼来君） 市長、佐々木敏夫君。

○市長（佐々木敏夫君） みんなに愛される日本遺産や文化財にするための取り組みについてお答えいたします。

豊後高田市には六郷満山という仏教文化に代表される数多くの歴史や文化遺産、そして地域が長い間伝えてきたお祭りなどの行事がたくさん残っています。国宝や富貴寺大堂や熊野磨崖仏、真木大堂の仏像などは皆さんもよく知っている文化財と思います。また、最近では耶馬と呼ばれる景勝のよいところが国の名勝として文化財に指定されるなど、豊後高田市には新しい文化財もたくさん発見されています。そして、今年度は鬼が仏になった里「くにさき」が日本遺産に認定されました。多くの市民の皆様にも喜んでいただいたところでもあります。

この日本遺産は、先日の日本文化財探訪研修でも体験した児童の皆さんもたくさんいますが、今回、認定された日本遺産のストーリーの主人公は鬼です。皆さん鬼ということばを聞くと、どこか怖いイメージがあると思いますが、豊後高田市の鬼は人々に幸せをもたらす優しい存在とされています。長い歴史

をかけて、地域が鬼と過ごしてきた文化は、現在もしっかりと受け継がれております。

私たちは、この日本遺産を始め、数多くの文化財を末永く受け継いでいくことは、非常に大切なことだと思っております。そのためには、まず皆さんが豊後高田市の歴史や文化のよさを知ってもらうことが一番だと思います。

ご質問の展示室や資料館を整備することは大事なことだと思いますが、実際に現地を訪れることで、文化財の魅力を、その環境も含めて実感しながら学習してもらいたいと考えております。

今、現地に説明板を設置していますが、小中学校を対象とした地域の歴史や文化財をめぐり、学習や出前講座などを実施しています。その中でわからないことがあったら何でも質問してください。これからも日本遺産や文化財を活用した地域の活性化や観光振興を図るため、従来の資料館は全国で赤字が続いております。そのような箱物はつくらなくて、豊後高田市の全地域が資料館となるよう考えています。そのためにソフトをつくり、観光施設や病院のテレビを利用して、広く観光客や市民の方々に豊後高田市の貴重な文化に触れていただき、そのよさをアピールしていきたいと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。

○議長（安藤礼来君） ただいまの答弁に対して再質問はありませんか。8番、銅野聖波君。

○8番（銅野聖波君） にぎわいのあるまちづくり委員会の銅野聖波です。再質問をします。

私は学校で田染荘や富貴寺などの文化財について勉強をしたり、清掃活動をしたりしているので、文化財に興味湧き、ふるさとの文化財を大切にする気持ちが高まっています。また、どの小学校でも、それぞれの地域にある文化財を調べ、考え、そしてそれを説明する学習をしています。

8月22日には、私たちの友達が豊後高田市の文化財史跡探訪に参加をしましたが、インターネットや本を参考にして、手づくりの資料をつくって説明をしました。しかし、調べ学習で私たちが目にする資料は、書かれていることばが難しく、わかりづらいことが多いです。そこで、日本遺産や市内に点在する文化財について、簡単なことばで説明をした子ども用のパンフレットや資料があると、とても参考になると考えています。パンフレットや資料をつくる計画はありますか。また、日本遺産や文化財の保存、継承のために私たちにできることがないか教えてく

ださい。

○議長（安藤礼来君） 文化財室長、板井浩君。

○文化財室長（板井 浩君） 銅野議員のみなさんに愛される日本遺産や文化財にするための取り組みについての再質問にお答えします。

まず、各学校において、地域の文化財についての学習や清掃活動をしていただいていることに対して、お礼を申し上げたいと思います。長年、受け継がれた文化財を守り伝えることは、一番大切なことだと思っております。文化財を大切に思う皆さんの取り組みは大変すばらしいことです。これからも引き続き文化財を守る取り組みをお願いいたします。

そして、ご質問にありましたように、先週、8月22日に小学校児童による豊後高田市の文化財探訪研修を実施しました。今回は、ことし認定を受けました日本遺産に関する場所を訪れ、研修する内容で実施をいたしました。各学校で事前に調べ学習をしっかりと行っていただいておりますので、その成果がよくあらわれ、当日の発表などは大変すばらしかったと感じました。このような研修を行い、皆さんが地域の歴史や文化を学ぶことで、自分が生まれ育ったふるさとのよさを知り、郷土を愛する心が養われているものと思います。地域を学ぶ学習の場として、これからも引き続き、この研修を実施していきたいと考えています。

ご質問の子ども用のパンフレットについてですが、今回、認定を受けました日本遺産の内容をわかりやすく伝えるため、現在、子ども版日本遺産ストーリーブックの制作を行っております。この中でもできるだけ多くの文化財をわかりやすく紹介したいと考えています。子どもから大人まで読んで楽しめるよう、絵本タイプで制作し、市内の学校や図書館などに配布をする予定としております。また、今、皆さんのお手元にこういった冊子の表紙を1枚、コピーしたものをお配りしております。この冊子につきましては、豊後高田の長い歴史の中でさまざまな分野で活躍した人たちを紹介した伝えたい豊後高田の先人たちであります。

そして、もう一つが、これが表紙なんです。高田の歴史をわかりやすくまとめた子ども版の豊後高田の歴史という本があります。こういった資料などもそれぞれ各学校の図書館に置いておりますので、これからふるさを学ぶ学習の時に活用していただければというふうに思っております。

以上でございます。

8月28日

○議長(安藤礼来君) ほかに質問はありませんか。
8番、銅野聖波君。

○8番(銅野聖波君) これで質問を終わります。
ありがとうございました。

○議長(安藤礼来君) 一般質問を続けます。2番、
土居光一郎君、7番、北迫黎風君の発言を許します。
7番、北迫黎風君。

○7番(北迫黎風君) にぎわいのあるまちづくり
委員会の北迫黎風です。僕たちは、僕たちのふるさ
との観光地の発展について質問をします。

豊後高田市には昭和の町を始めとする長崎鼻や真
玉海岸の夕陽などのすばらしい観光地、そしてホー
ランエンヤや若宮神社の裸まつりなどのお祭りがた
くさんあり、観光客の方が多く訪れています。

僕たちは学校の活動として、豊後高田市のことを
学習したり、観光地の清掃や花の種まきをしたり、
外国から修学旅行で来た子どもたちなどに豊後高田
市のことを紹介したりしています。そのたびに、僕
たち自身が豊後高田市のよさに気づくことができま
す。だから、いろいろな人に豊後高田市のよさを知っ
てもらい、もっと多くの人に訪れてほしいと思っ
ています。そして、来てくれた人には、また来たいと
思っています。そのためには、例えば、昭和の
町に市民の方々や観光客の方々が触れ合えるような
場所があるといいと思います。ここで質問を交代し
ます。

○議長(安藤礼来君) 2番、土居光一郎君。

○2番(土居光一郎君) にぎわいのあるまちづく
り委員会の土居光一郎です。質問を続けます。

私は、ふるさとの観光地をもっと発展させるため
に、観光客の方だけでなく、市民の方々が豊後高田
市の観光地を訪れたり、お祭りに参加したりするよ
うになるといいと思います。例えば、昭和の町に気
軽に買い物をするようなお店があると、市民の方々
も子どもももっと行くようになるのではないかと思
います。そして、僕たちがやっている観光地の清掃
活動や花の種まきのような活動を市民の方々と一緒
にやっていけたらいいと思います。

そこで、今後、昭和の町や観光地、お祭りを市民
の方々を始め、子どもや観光客に親しんでいただく
ためにどのようなことを考えているのか教えてください。

○議長(安藤礼来君) 市長、佐々木敏夫君。

○市長(佐々木敏夫君) 僕たちのふるさとの観光
地の発展についてお答えいたします。

私たちの豊後高田市には昭和の町や国宝富貴寺大
堂、熊野磨崖仏などを代表する六郷満山文化、田染
荘小崎など数多くの歴史、文化遺産があります。ま
た、日本夕陽百選の真玉海岸、縁結びの神様粟嶋社、
花とアートの岬長崎鼻など、そして国の名勝に指定
された天念寺耶馬、そして無動寺耶馬、さらに中山
仙境(夷谷)が今回名勝指定にふさわしいとの答申
をいただいております。さらには、それぞれ泉質が
異なる6つの温泉があります。数多くの観光資源に
恵まれており、近年は昭和の町に年間37万人のお客
さんが訪れております。市全域で110万人のお客さん
をお迎えし、このことから子ども市議会の議員の皆
様を始め、多くの市民の皆様の観光振興に対するご
理解とご協力があってできることと思っております。
改めて感謝を申し上げます。

現在、豊後高田市では、さまざまな観光振興事業
を行っていますが、これは本市にある多くの観光資
源を活かして、地域を元気にするためのものであり
ます。例えば、観光がもたらす豊後高田市への効果
を申しますと、平成28年度に観光客が市内に使っ
てくれる金額、観光消費額は年間23億円と推計され
ております。同じ年の豊後高田市の小売業の年間商品
販売額が181億円であることから考えますと、観光は
市の経済を支える重要な産業の一つと言っても過言
ではないと思っております。

したがって、観光地としてさらに発展させ、より
多くの方々に豊後高田市を訪れてもらうことで、市
がもっと元気になり、市の発展の源になります。そ
ういったことから、観光振興は市にとってはとても
重要なものであります。まず市民の方々に観光地と
して、その魅力を知っていただき、そして体感して
いただくことが大切だと考えております。

今後の観光振興の取り組みにつきましては、現在、
ケーブルテレビやインターネット、フェイスブック
でも紹介していますが、例えば、長崎鼻ではビーチ
の魅力アップや健康づくりのためのサービスの提供
など、集客力を向上するため、長崎鼻パーフェクト
ビーチ事業を行っています。昭和の町では、町の魅
力をさらに高めるため、新町通り商店街にある大分
銀行跡地に来年度、新しい観光拠点施設をつくるた
め、現在、設計を行っています。この施設では、
観光客だけでなく、市民の方々が交流できる広場な
どをつくる予定であります。

また、最近、大変多くの外国人観光客にお越しを
いただいておりますが、来年にはラグビーワールド

カップ、そして再来年には東京オリンピックが控えております。今後、世界中からより多くの外国人が日本を訪れます。その方々に豊後高田市を訪れてもらえるよう、受け入れ環境整備は大切です。具体的には、昭和の町の商店街の中でもインターネットを使えるようWi-Fi環境や外国語の観光案内装置看板、そして昭和の町のホーランエンヤや裸祭りなどのお祭りも観光客の方がスマートフォンで楽しめるように案内動画の制作なども取り組んでおります。

いずれにいたしましても、観光地としてさらに発展していくためには、子どもから大人を含めた全ての市民の方々に自分たちの町に誇りを持っていただくと同時に、観光客に対する心の通ったおもてなしが何より大切であると思っております。

そういうことから、市民の方々による観光地の清掃活動の継続や市全体で観光客を温かくお迎えする環境づくりを今後とも市民の皆様と一緒に取り組んでまいりますので、子ども市議会議員の皆様方のご協力をお願い申し上げます。よろしく願いいたします。

○議長(安藤礼来君) ほかに質問はありませんか。2番、土居光一郎君。

○2番(土居光一郎君) これで質問を終わります。ありがとうございました。

○議長(安藤礼来君) 一般質問を続けます。3番、穴瀬ひかり君、9番、後藤凰我君の発言を許します。3番、穴瀬ひかり君。

○3番(穴瀬ひかり君) 市民にやさしいまちづくり委員会の穴瀬ひかりです。私たちは、人にも生物にも優しいクリーンなまちづくりについて質問をします。

私たちは4年生の時に社会見学でゴミ処理場に行き、暮らしかから出るゴミについての学習をしました。ゴミ処理場ではかなりの量のゴミが集められており、それを見たとき、自分たちが出したゴミがこんなにたくさんあることにショックを受けました。これをきっかけに、ゴミの分別やリサイクルについて学習をして、ゴミを減らすことの大切さに気づきました。

私たちは学校の周りや地域に出かけて、ゴミ拾いを行っています。しかし、残念ながら、お祭りなどの行事の後には、公園や川、田畑などに空き缶やお菓子の袋などのゴミが捨てられていることがあります。行事にお客さんがたくさん来てくれることはとてもうれしいのですが、行事の後にゴミがたくさん

落ちていることはとても残念です。

また、普段でも公園や田畑、用水路など、ゴミが捨てられているのを見たこともあります。公園や道路、川などには、ポイ捨て禁止と書かれている看板が立てられていますが、それでもゴミが捨てられています。そこで、豊後高田市としてポイ捨てのゴミを減らすためにどのような対策をとっているのか教えてください。

○議長(安藤礼来君) 市長、佐々木敏夫君。

○市長(佐々木敏夫君) 人にも生物にも優しいクリーンなまちづくりについてお答えいたします。

ゴミのないクリーンなまちづくりのためには、定期的に清掃活動を行うことで、ゴミのない美しい状態を保つことと、市民の皆様はもとより、本市を訪れる観光客の皆様に対して、ポイ捨て防止等の呼びかけを続けることが重要であると考えております。

その取り組みといたしましては、年に3回、多くの市民の皆様に参加をしていただき、長崎鼻や真玉海岸などの清掃活動を行うゴミゼロ健康スタンプラリーを開催いたしております。最近では、長崎鼻サマーフェスティバルの翌日、7月16日に長崎鼻と若宮八幡周辺の清掃活動を行いました。2つの会場でおおよそ270人の方に参加をしていただきました。約1時間の清掃活動で、おおよそ380キログラムのゴミを集めることができました。

また、中央公園周辺では、毎月1回、ポイ捨て防止の呼びかけや清掃活動を行うゴミゼロGメンパトロールを行っており、ポイ捨てだけでなく、ペットのふんなどについても正しい処理を呼びかけているところでもあります。

そして、毎年5月30日はゴミゼロぶんどたかだの日として、ゴミゼロぶんどたかだ推進大会を開催いたしております。この日は、長年、ゴミ拾いのボランティアを続けてくださった方などの表彰や環境問題についての講演会を行うとともに、ゴミゼロ総行動として住んでいるところや学校、職場周辺のゴミ拾いをみんなで行うことで環境美化に対する意識を高める取り組みを行っています。

さらに、小学校4年、5年、6年生の皆様には、毎年、環境標語を考えていただいておりますが、応募作品の中から選考しまして、優秀作品については看板にして昭和の町周辺に掲示し、小学生から啓発メッセージとして活用させていただいております。

今回、いただいたご意見をお聞きする中で、私は

子ども議員の皆さんの市を思う気持ちを肌で感じさせていただきました。貴重なご意見として受けとめさせていただきたいと思っております。ありがとうございます。皆さん方のこのような意識を学校の友達にも知らせていただき、学校全体に広げてほしいと思っております。さらには、各家庭や地域の方にも伝えていただき、その輪が大きく広がることを期待いたしております。また、この取り組みを継続することにより、将来にわたって豊後高田市がごみのないきれいな町になることを市民の皆様と一緒に進んでいければと思っております。ご提案ありがとうございます。

○議長（安藤礼來君） ただいまの答弁に対して再質問はありますか。9番、後藤凰我君。

○9番（後藤凰我君） 市民にやさしいまちづくり委員会の後藤凰我です。再質問します。

私もお祭りの後、河川敷や川などにごみが落ちていたのをよく見ます。川や田畑にごみが落ちていると、私たち人間が気持ちよく生活できないだけでなく、そこに生きている生物たちが住みにくくなってしまいます。以前、海で溺れて羽が黒く汚れてしまった鳥がテレビに映っているのを見たことがあります。その黒い鳥の映像が印象に残っています。この海が汚れてしまったことを考えると、川でも同じことが起こったら、川に住んでいる生物が住みにくくなると思いました。そこに住んでいる生物が住みにくくなるということは、自然を壊していくことにつながっていきます。私たちが優しい気持ちを持たなければ、自然を守っていくことはできないと思っております。そこで、ごみゼロ運動のほかに自然を守っていくためにどのような取り組みや呼びかけをしているのか教えてください。

○議長（安藤礼來君） 環境課長、後藤史明君。

○環境課長（後藤史明君） 人にも生物にも優しいクリーンなまちづくりについての再質問にお答えします。

ポイ捨てを防止するためには、自分たちの住んでいる町を美しくするための行動や呼びかけが重要ですが、それに加えて、なぜごみを捨ててはいけないかといったことを学習することや環境問題に興味を持つことが大切であると考えています。そのため、本市では市内の幼稚園や保育園、小中学校と連携し、ごみの問題を始めた環境問題について学んでいただいております。

先月、夢いろ幼稚園で開催しましたオリジナルエコバックづくりでは、子どもたちと保護者へ買い物

の際には、ごみになるレジ袋をもらわないようにする呼びかけを行うとともに、ビニール袋が捨てられて海に流れ込んだ場合、海に住む生き物にも悪い影響があることについても説明しました。

このほかにも、ことし6月には、本市の環境に対する基本的な姿勢や、市、市民、事業者の役割などを定めた環境基本条例を制定しました。そして、7月には市報ぶんごたかだやケーブルテレビでごみについての特集を行うなど市民の皆さんへ環境について関心を持ってもらう取り組みを行っています。

今後もこのような学習会の開催やいろいろなメディアを使ったお知らせなどを行い、自然を守ることの大切さを含めた環境問題について、一人でも多くの方々に興味を持ってもらう取り組みを進めていきたいと考えています。

以上です。

○議長（安藤礼來君） ほかに質問はありますか。9番、後藤凰我君。

○9番（後藤凰我君） これで質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（安藤礼來君） これにて一般質問を終結いたします。

○議長（安藤礼來君） 日程第8、委員会設置の件を議題といたします。

お諮りいたします。市民にやさしいまちづくり委員会、にぎわいのあるまちづくり委員会、学んで遊んで楽しいまちづくり委員会を設置し、ぶんごたかだ子ども市議会の提言案をまとめていただきたいと思っております。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安藤礼來君） ご異議なしと認めます。よって、ただいまの各委員会を設置し、提言案をまとめることに決定いたしました。

○議長（安藤礼來君） 日程第9、各委員会の委員長及び副委員長並びに委員の互選を行います。

互選の方法は、指名推選の方法を用いたいと思っております。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（安藤礼來君） ご異議なしと認めます。よって、互選の方法は指名推選の方法を用いることに決定しました。

市民にやさしいまちづくり委員会委員長に高田小学校6年、栗本琥太郎君、副委員長に戴星学園6年、川口祐樹君、委員に桂陽小学校6年、穴瀬ひかり君、高田小学校6年、後藤凰我君、真玉小学校6年、二

宮誉彰君、三浦小学校6年、池森夏妃君。

にぎわいのあるまちづくり委員会委員長に桂陽小学校6年、大西一歌君、副委員長に呉崎小学校6年、土居光一郎君、委員に田染小学校6年、河野快星君、高田小学校6年、北迫黎風君、河内小学校6年、銅野聖波君、香々地小学校6年、安藤礼來君。

学んで遊んで楽しいまちづくり委員会委員長に桂陽小学校6年、近藤海空君、副委員長に高田小学校6年、安藤慶一郎君、委員に香々地小学校6年、高松栞歩君、臼野小学校6年、外山 渚君、真玉小学校6年、米光 裕君、草地小学校6年、富重貴弘君を指名したいと思います。これにご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(安藤礼來君) ご異議なしと認めます。よって、ただいまの各委員長及び副委員長並びに委員が互選されました。

各委員の皆様方につきましては、この後、各委員会において提言案の審査をお願いします。再開後、各委員長の報告を求め、委員長報告に対する質疑、討論、採決を行います。

しばらく休憩します。

午前10時37分 休憩

午前11時10分 再開

○副議長(富重貴弘君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

これより副議長、富重貴弘が議事進行を行います。よろしくをお願いします。

○副議長(富重貴弘君) 日程第10、これより委員長の報告を求めます。

市民にやさしいまちづくり委員長、栗本琥太郎君。

○市民にやさしいまちづくり委員長(栗本琥太郎君)

市民にやさしいまちづくり委員会委員長の栗本琥太郎です。市民にやさしいまちづくり委員会の提言をまとめましたので報告いたします。

市民にやさしいまちづくりとは、みんなの暮らしやすさにつながるバリアフリー化や、人にも生物にもやさしいクリーンなまちづくりを進めることだと思えます。それは、豊後高田市に住んでいる人、豊かな自然、そこに住む生物にもやさしい町を、人任せではなく自分たち自身がつくっていくことによって実現すると考えます。

現在、豊後高田市では市民の暮らしやすさにつながるさまざまなサポートがあります。例えば、誰もが利用しやすいように、みんなが使う施設では段差

をなくしてスロープをつけたり、歩道には点字ブロックなどの設備を整えたりしています。また、市報の点字、音訳やホームヘルパーさんの支援、自宅で生活できるように改修のサポートなどもあります。豊後高田市のサポートが充実していることを知り、私たちがやさしいまちづくりのためにできることをしたいと思いました。

また、市の行事には市内、市外からたくさんのお客さんが訪れ、楽しんでくださっています。とてもうれしいことです。しかし、行事の後、ごみがあちこちに捨てられていることがあります。地域の川や山などでもごみを見ることがあります。これはとても悲しいことです。豊後高田市では、現在、ごみの減量や環境を守るための取り組みが多くなされています。私たちの学校や家庭でも同じように取り組んでいますが、地域でごみを見かけると、もっとできることがあるのではないかと思います。そこで、私たちの豊後高田市をもっとやさしい町にするために3つのことを提言します。

1つ目は、積極的に情報を受け取り、発信することです。例えば、私たち一人一人が体の不自由な方々や支援を必要としている方々についてもっと知ろうとすれば、どんなことに困っているのか、どのような支援を必要としているのか理解することができます。まずは積極的に知ろうとすることが大切だと思います。

そこで、小学生の私たちにできることを考えました。学校では高齢者や障がい者の方々の方々の権利や、お互いに助け合うことの大切さなどを学んでいます。実際に地域の高齢者や障がい者の方と触れ合う機会もあります。その時に積極的に話をしたり、学んだことをまとめ、学校のホームページで知らせたりすることができるのではないかと思います。私たちの学校でも取り組んでいる体験活動やアルミ缶回収の活動も市報やケーブルテレビを通して市民の方にお知らせしていただいています。もっと市民の方に知ってもらうためにも、自分たちから情報発信していくこともできるのではないかと思います。お互いの持っている情報を共有することで、理解が深まり、行動したいという気持ちにつながるのではないのでしょうか。

2つ目は、分別回収ボックスを市内の自動販売機の横へ設置することです。私たちの学校ではアルミ缶を集めて介護ベッドを贈る取り組みをしています。豊後高田市もみんながアルミ缶を集めることで多く

の介護ベッドや車いすなど、支援に必要なものを贈ることができると思うのです。市報やケーブルテレビで市民の皆さんに呼びかければ、協力の輪も広げることができると思います。

3つ目は、町をきれいにする意識を高める活動を行うことです。豊後高田市にはたくさんのお客さんがいらっしやいます。せっかく来ていただいたときにごみが捨てられていると残念な気持ちになると思います。私たちはそれぞれの学校で地域に出かけて清掃活動を行っています。道路を歩きながらごみを拾ったり、地域の文化財などの清掃活動をしたりすると、ごみを捨ててはいけないという気持ちや豊後高田市がずっときれいな町であってほしいという気持ちが生まれてきます。そこで、これからも地域に出かけて清掃活動を続けていき、みんなできれいな町をつくり、自然にもやさしいまちづくりに貢献していきたいと思います。

以上の3つを私たちを始め、皆さんで考え、実行していけば、やさしい町をみんなで力を合わせてつくることができると考え、私たち市民にやさしいまちづくり委員会6名の提言とします。

これで報告を終わります。

○副議長（富重貴弘君） にぎわいのあるまちづくり委員長、大西一歌君。

○にぎわいのあるまちづくり委員長（大西一歌君）

にぎわいのあるまちづくり委員会委員長の**大西一歌**です。にぎわいのあるまちづくり委員会の提言をまとめましたので報告いたします。

豊後高田市は豊かな自然と歴史や文化の香るすてきな町です。そして、千年の昔から伝わる伝統文化や祭り、多くのすぐれた文化財や史跡を大切に、受け継いでいく活動が脈々と続けられてきています。この豊かな自然や歴史、文化は私たちの財産で宝です。豊後高田市に暮らす私たちには、このすばらしい自然や歴史を大切に守り、受け継いでいく責任があります。

また、新たな発想が具体化したり、これまで見えなかった資源や財産が発掘されたりしたものもあります。昭和の町や日本夕陽百選に選ばれた真玉海岸、花とアートの岬長崎鼻など景勝地や観光地です。このような場所に年間110万人を超える人たちが訪れているそうです。そして、今、観光客だけでなく、市民の方々や私たちが買い物のできるさまざまなお店や交流ができる広場をつくる計画も進んでいると聞きました。私たちも利用ができる施設なので楽しみ

にしています。

私たちは受け継いだ財産を大切に、人と人がつながる町をつくるのがにぎわいのあるまちづくりにつながると考えています。そして、私たち自身がそのようなまちづくりに貢献したいと思っています。そこで、この豊かな自然や歴史、文化を未来につなぐために、にぎわいのあるまちづくり委員会から小学生の私たちに今できることとして3つを提言します。

1つ目は、私たちが日本遺産を始め、たくさんの文化財についてしっかり学習し、豊後高田市の歴史やよさを伝えるようにするということです。例えば、現地へ出かけて調べ学習をしたり、地域の歴史や文化財を巡る出前講座を通して学習したりしたいと思います。さらには、豊後高田市を訪れた方々と交流を図り、学んだことを伝えることで地域の活性化に貢献したいと思います。

2つ目は、各小学校オリジナルの小学生向けのパンフレットをつくってはどうかということです。現在、それぞれの学校で地域の文化財について勉強したり、清掃活動をしたりしています。そして、その学習成果を活かして資料をつくり、夏休み中に行われる豊後高田市の文化財、史跡探訪や島原市の小学校・児童会との交流会で説明をしています。この学習をさらに広げ、豊後高田市で今後作成予定の子ども版日本遺産ストーリーブックや伝えたい豊後高田の先人たち、そして、子ども版豊後高田の歴史なども参考にしながら、オリジナルの小学生向けのパンフレットをつくれれば、豊後高田市内の学校同士で紹介し合ったり、ホームページなどに掲載して県外の方々にも紹介したりすることができます。

3つ目は、私たちも観光地での人と人とのつながりを大切にするために、これまで以上にあいさつ運動に取り組み、心の通ったおもてなし活動に協力するということです。

来年に迫ったラグビーワールドカップ、再来年の東京オリンピックに世界中から日本に多くの外国人観光客が訪れます。豊後高田市にも訪れていただけるように外国語の観光案内看板や案内動画などの制作が進められているそうです。

また、今後、市民の方々による観光地の清掃活動や市全体で観光客を温かくお迎えする環境づくりをされるということなので、私たちも市民の方々と一緒に環境づくりに協力し、気持ちよく豊後高田市に来ていただけるように、心の通ったおもてなしの活

動に協力したいと考えています。具体的には、現在行っている観光地での清掃や花の種まきなど、美しい環境づくりを継続すること、市に訪れた国内外の子どもたちに豊後高田市の紹介をして交流を深めること、そして今まで以上に明るくあいさつをすることです。市内全ての学校ではぶんごたかださわやかあいさつ運動の取り組みを通して、あいさつの飛び交う学校づくりを目指しています。この活動をもっと充実させ、いつでも、どこでも、誰にでもさわやかなあいさつができるようになれば、一番の心の通ったおもてなしになると思います。

以上の3つを私たちを始め、豊後高田市に住む皆さんで考え、実行していけば、私たちのふるさと豊後高田市の豊かな自然や歴史、文化を未来につなぐことができる考え、私たちにぎわいのあるまちづくり委員会6名の提言とします。

これで報告を終わります。

○副議長（富重貴弘君） 学んで遊んで楽しいまちづくり委員長、近藤海空君。

○学んで遊んで楽しいまちづくり委員長（近藤海空君） 学んで遊んで楽しいまちづくり委員会委員長の近藤海空です。学んで遊んで楽しいまちづくり委員会の提言をまとめましたので、報告いたします。

私たちは学校で自分の考えを持ち、友達と話し合いながら課題を解決する学習をしています。土曜日や放課後には、学びの21世紀塾で地域の方々から勉強やスポーツを学んだり、さまざまな体験活動に参加したりしています。新しいことを知ったり、できるようになったりすると、とても楽しいです。

私たちが大人になるころの社会では、今よりもっと情報化が進み、AIやロボット、そして世界中の人々と一緒に仕事をしていくようになると言われていきます。どんな未来が待っているのか不安な気もしますが、とても楽しみです。今、学校ではICTを使った授業が行われていますが、私たちが主体的に学ぶことにとっても役立っています。私たちは、自分たちが抱いているそれぞれの夢を実現するために、もっといろいろなことに頑張っていきたいと思っています。

一方で、最近、豪雨や台風による自然災害が各地で発生しており、自分たちのところでも災害が起こるのではないかと不安な気持ちになります。

現在、豊後高田市では避難生活が長くなるような大規模な災害は起きていませんが、長期的になることも考えて、みんなの命を守る施設の整備に努めて

くれています。指定避難所34カ所の内、17カ所は冷暖房が完備されており、小中学校の体育館については扇風機やストーブで対応してくれています。食料や毛布など備蓄物資も整備されています。また、設備面だけでなく、小学校区での総合防災訓練や自治体ごとの防災研修など、命を守るスキルを高める取り組みも行われています。

これらのことから、学んで遊んで楽しいまちづくりとは、私たち一人一人が主体的に学び、その学びを自分づくりや地域づくりに役立てることで、誰もが豊かな心で生きがいを持ち、安全安心に生活できる町をつくっていくことだと考えました。そこで、学んで遊んで楽しいまちづくり委員会から未来を担う私たちにできることとして3つのことを提言します。

1つ目は、防災マップの作成、提示をすることです。豊後高田市では総合防災ハザードマップを作成し、ホームページでいつでも観覧できるようにしてくれています。そこで、私たちも小学校ごとに地域の危険箇所を調べ、オリジナルの地域防災マップをつくってはどうか。そして、その情報を地域の方と共有することで、災害時に慌てず、冷静に素早く、適切な対応ができるように備えることができるのではないかと思います。

2つ目は、避難訓練に真剣に取り組む、命を守るスキルを高めていくことです。学校では、1年間に3回から4回、災害避難訓練を行っています。その1回1回の訓練を大切にして、私たちが自助と共助の力を高めていくことが大切だと思います。小さな子どもやお年寄りの方々の助けになれるような力をつけていきましょう。

3つ目は、私たちが主体的な学びをさらに深めるためにICTを適切に活用できる力をつけることです。豊後高田市では、これからの時代を私たちが生き抜いていくために、1人1台のタブレット端末の設置や通信環境の整備について考えていただけるとお聞きしました。タブレット端末を使った学習で私たちは今以上にたくさんのお話を身につけていくことができるようになります。しかし、ICTの活用は便利な反面、使い方を誤れば相手を傷つけたり、無用なトラブルに巻き込まれたり、大変な事件につながる可能性があります。だから、私たちはICTを使えるようになることを、そしてICTを使って学習を深めていくことと同時に情報モラルについて学習していくことが大切です。正しい知識の下で効

8月28日

果的にICTを使った学習に取り組み、力をつけ、自分たちの夢を実現させていきましょう。

以上、3つのことをみんなで力を合わせ、各小学校で実行していけば、誰もが豊かな心で生きがいを持ち、安全安心に生活できると考え、私たち学んで遊んで楽しいまちづくり委員会6名の提言といたします。

これで報告を終わります。

○副議長（富重貴弘君） 以上で委員長の報告を終わります。

これより、ただいまの委員長の報告に対する質疑に入ります。質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○副議長（富重貴弘君） 質疑なしと認め、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○副議長（富重貴弘君） 討論なしと認め、討論を終結いたします。

ただいまから採決に入ります。議席に設置されている賛成、反対、いずれかのボタンを押した後に賛成する人は起立してください。反対する人はそのまま着席してください。

お諮りいたします。ぶんごたか子ども市議会の提言については、各委員長の報告のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○副議長（富重貴弘君） 起立多数であります。よって、ぶんごたか子ども市議会の提言については、各委員長の報告のとおり決定をいたしました。ご着席ください。

○副議長（富重貴弘君） 以上で本日の会議は全部終了いたしました。

ここで教育長から発言を求められておりますので、これを許します。教育長、河野 潔君。

○教育長（河野 潔君） まず、本日はぶんごたか子ども市議会がこのように開催されましたこと、特に主権者教育が具体的に始まった現在だからこそ極めて時機を得たものであり、教育委員会といたしましても大変ありがたく思っているところであります。ご出席いただきました皆さんに心から感謝をし、お礼を申し上げます。ありがとうございます。

子ども市議会の子ども議員の皆さん、7月24日に市長から委嘱状をいただいて、そしてきょうまで1カ月余り、その間、議会のしくみの勉強や、また質

問の聞き取りなど、本当に皆さんよく頑張ってくれたと思っております。その分、皆さんが非常に頼もしく、ここから見ておりますと輝いて見えているところであります。

学校生活では、おそらく味わうことのできない貴重な体験を得たものと、そう思っておりますし、緊張もしたと思えますけれども、その緊張した分、皆さんの充実した、その様子がここから伺えます。子ども議員の質問や提言は、身近な学校のことから地域の環境福祉、そして観光、文化財など、多岐にわたって、皆さんの物事に対する関心の高さ、そして、ふるさとへの思い、それを堂々と質問をする姿に頼もしさと未来への可能性を感じましたし、大変感動し、思わず胸が熱くなりました。

豊後高田市の未来を担う皆さんであります。その皆さんの質問、提言は、これからの行政や教育行政に必ず活かされるべきものと、そう思っているところであります。子ども市議会議員の皆さん、本日は本当にありがとうございました。

やがて、9月3日から2学期が始まります。きょうの体験を必ずや学校生活の中で活かしてくれるものと、そう信じておりますから、どうぞよろしくお願いをいたします。

そして、結びになりましたが、本日の子ども市議会に当たりましてご尽力賜りました安達市議会議長様を始め市議会議員の皆様、そして学校関係者、保護者の皆さんに心から感謝を申し上げまして、挨拶にかえさせてもらいます。本日はまことにありがとうございました。

○副議長（富重貴弘君） ありがとうございました。

これをもちまして、平成30年第1回ぶんごたか子ども市議会を閉会いたします。

午前11時39分 閉会

地方自治法第123条第2項の規定によりここに署名する。

子ども市議会議長 安藤 礼 来

子ども市議会副議長 富 重 貴 弘

子ども市議会臨時議長 池 森 夏 妃

8月28日

子ども市議会議員 二宮 誉 彰

子ども市議会議員 米 光 裕